

estradiol を添加した場合にのみ酸素消費能は増大し、Progesterone, Testosterone 添加の場合には酸素消費能をさらに減少していた。

演者らはこれらの代謝様相を詳細に追求するため、酢酸-2-C¹⁴オクタン酸-1-C¹⁴, パルミチン酸-1-C¹⁴ を基質とし、estradiol, progesterone, Testosterone を添加した場合の酸素消費能, 炭酸生成量, アセト酢酸生成量, 脂質生成量を人胎盤絨毛組織ならびに末期胎盤について観察したので報告する。

8. (演) 子宮収縮に関する研究 (第6報)

(日医大第一) 鈴木正勝, 武内正伸
紫竹芳郎, 川村満元, 本間智介

1) 子宮収縮剤の妊娠早期に於ける効果

満期分娩後には、Ergometrin 類の子宮収縮効果は極めて優れたものであるが、妊娠早期に於いては、その作用は極めて弱い。之に反し、Sparteïn, Oxytocin の収縮効果は著明であるが、その作用時間が弱いので、Sparteïn 又は Oxytocin に Ergometrin を加えてその子宮収縮効果を検討した。Sparteïn の子宮収縮効果は、妊娠早期中絶後においては極めて強く、100mg ではやゝ過度であるので、50mg として、Ergometrin と混注してほぼ所期の効果を得た。Oxytocin は3単位でほゞ之と同じ収縮を得た。

2) 破水前後の子宮収縮については、第1報に既報したが、今回は Planimeter 値によつて得た成績を述べる。破水前後の子宮収縮は、一般に有意差はなかつたが、破水後 Tonus が3 mmHg 以上下降した場合には、収縮が増強したことが多い。また破水前後の Oxytocin 効果も比較した。前期破水、早期破水例においては、分娩3~2時間までは、前にあげた正常分娩の Planimeter 曲線より明らかに低い収縮を示したが、1時間前になると、上昇して正常と同様の収縮となつた。

3) 子宮筋の顕微鏡的検索によつて得た結果を之に追加する予定である。

9. (演) 子宮収縮緩和剤の研究

(東京通信) 安井修平, 楠本雅彦, 下平和夫
島中俊次, 大沢辰治, 伊藤宜孝, 清水昭造
高橋哲也, 植松 修

近年、種々優秀な子宮収縮剤が逐次発表され、効果を認められているが、反対に子宮収縮緩和剤の研究は僅かである。

1956年 Adrenalin 誘導体の Isoxsuprine, Duvadiran の子宮収縮緩和作用が発表され、本邦に於ても岡富等の報告がある。

又、最近、米国に於ては鎮痙作用のある抗コリン体の研究により Piperidol 誘導體 Dactil に子宮収縮緩和作用のある書が発表された。

我々は以上の2物質を主とし、更に各種の薬剤を用い、マグヌス法により子宮収縮緩和作用を測定した。

非妊子宮体筋肉を Atonin により収縮運動を起し、各種薬剤を使用すると、Papaverin はもつとも強力で、Dactil, Buscopan, Duvadilán は収縮運動を明かに抑制する。麦角製剤の Hydergin は抑制作用なく、又自身の子宮収縮作用も極く僅かである。

子宮頸部に対しては、Duvadilán, Buscopan, Papaverin は収縮緩和作用があるも、Dactil のみは反対に収縮作用がある。

九嶋によれば、子宮頸部には Spincter 様機能があり、Oxytocin は子宮体部に収縮(副交感興奮)、頸を弛緩(交感興奮)と云う複雑な作用があるが、自律神経剤、子宮収縮剤では頸、体に同様に作用すると断じているが、Dactil のみはこれに属さず、体は弛緩:頸は収縮という、Oxytocin と全く反対の作用を示していることは興味深い。

この故に臨床的には Duvadilán は月経困難症に Dactil は切迫流早産に使用するのが適當である。

10. (演) 妊娠中の性比の観察

(広島植田病院) 植田秀嶺, 三原三郎

本院過去13年間のカルテ、広島市の過去7年間の報告、昭和25年より34年に亘る全国人口動態統計等の資料に基いて、性別記載の明白なる妊娠4カ月より妊娠10カ月に至る期間の人工及び自然流早産、満期分娩に就いて妊娠中の男女の割合を調査した。妊娠の何れの時期に於いても人工及び自然流早産は共に男性は女性に比して高率にあり、亦、自然流早産の性比は人工流早産に比して、高い比率にある。妊娠4カ月及び妊娠5カ月の実測性比は人工流産、自然流産共に著しく高く、亦、妊娠10カ月の人工及び自然早産の実測性比も可成り高いが、前者は外性器の粗略なる観察に由るものであり、亦、後者は母児双方の好ましからざる諸因子の外、作為的の処理に由るものと思われ、何れも信頼性を欠く。然し妊娠6,7,8,9の4カ月の実測性比は十分に信頼性のおけるものである。従つて全妊娠期間の性比を回帰分析法に依つて推計するには前記妊娠6,7,8,9カ月の実測性比に依存するの外はない。

斯の如くにして、妊娠期間中の人工及び自然流早産の性比を回帰直線にて表わすと

$$y = 118.1 - 0.5x, y = 113.5 + 0.9x$$

なる回帰方程式で表現でき、その信頼限界は何れも危険率5%で前者は上限+3.5, 下限-4.5, 後者は上限+6.1, 下限-4.3の数値を得た。更に過去10カ年の出生実数に人工及び自然流早産の実数を加算したものに就いて、同様に性比を求め、回帰直線にて表わすと、 $y = 107.7 - 0.2x$ なる回帰方程式を得た。その信頼限界は同じく危険率5%で上限+0.96, 下限-1.36であり、第1次性比は緩やかなる傾斜を以つて低下しながら移動するものであろうと推測した。

11. (演) EST に於ける PS の成因並びに早期妊娠に対する診断的価値に就いて

中華民國台湾省

(省立台北医院) 欧雲炎, 蘇金旭

(県立鳳山医院) 張簡哲郎

EST (Endometrial Smear Test) を用い、228例の患者に就いて主として早期妊娠に於けるPS (Pregnant Substance) の診断的価値並びにPSの成因に就いて検討し、次の如き結果を得た。

A) PS そのものに就いて

1) PSとは塩基性~無色に染まる周囲との境界鮮明な無構造物質である。その成分は一種の蛋白質であると考えられる。

2) PSとは妊卵に対する闘争の結果生じた単核喰細胞の残骸であると推察される。

3) PSは妊娠時、子宮腔内に存し、頸管内には証明されない。

4) PSは妊娠早期、即ち予定月経日にも既に出現し、妊娠3カ月迄の観察では妊娠の進行に伴つて漸次著明の傾向にある。

5) 子宮外妊娠中絶時にも証明される(66.7%)。

6) 月経前期にも稀に出ることがある(2.2%)。

B) 早期妊娠に対するPSの診断的価値に就いて

1) A群(0~7)ではPS(+)の93.3%が妊娠でPS(-)の80.4%が非妊、両者合せての総適中率は87.3%である。

2) B群(8~14)ではPS(+)の95.0%が妊娠でPS(-)の81.9%が非妊、両者合せての総適中率は92.0%である。

3) C群(15~21)ではPS(+)の100.0%が妊娠でPS(-)の85.7%が非妊、両者合せての総適中率は97.8%である。

4) D群(22~28)ではPS(+)の100.0%が妊娠

でPS(-)の75.0%が非妊、両者合せての総適中率は90.0%である。

5) A~D群(0~28)ではPS(+)の96.2%が妊娠でPS(-)の80.9%が非妊、両者合せての総適中率は91.4%である。

以上のことからPSは妊娠早期診断だけでなく、子宮外妊娠、流産の診断にも重要な所見である。殊に共存せる内膜の所見を参考にすれば他法に劣らない適中率を示し、且つ速決的診断法として価値あるものと考えられる。

12. (演) 脂質投与が妊娠個体の下垂体副腎系並びに下垂体卵巣系機能に及ぼす影響に就いての実験的研究(第2報)

(京大) 西村敏雄, ※三木通三

真鍋幸夫, 田中基

必須脂酸に富むゴマ油乳剤を妊、非妊白鼠に長期間大量投与して、その下垂体副腎系並びに、下垂体卵巣系機能に及ぼす影響を特に脂質代謝との関連において追求した結果は、既に第1報に於いて報告したが、今回は、これを組織化学的な面から裏付けすべく検討を加えたので成績を報告する。先ず下垂体前葉に対して、PAS並びにKresazan染色法を行つた処、脂質投与により非妊群では何れの性周期に於いてもβ細胞が増加しているに拘わらず、同細胞内の好塩基性顆粒は著明に脱顆粒しており、これによりホルモンの産生及び放出が盛んに行われている事が示唆されたが、妊娠群に於いてはそれの投与によつて非妊時における様な傾向は見られたとはいへ、その程度は極めて軽微であつた。次に標的臓器副腎並びに卵巣について同じ脂質負荷条件下においてSudan III染色を行つた処、非妊時では何れの性周期に於いても妊娠時に於けるよりは著明に陽性顆粒の存在する事が見られた。

以上の成績は既に報告した第1報を更に裏付けたものであり、これによつて投与された脂質乳剤のステロイド合成源としてもつ意義は妊娠時と非妊時では大いに異つていものである事が推想された。尚、胎盤についても検討中であることを附記しておく。

13. (演) 妊産婦栄養に関する研究

特に食餌について

(日大) 沢崎千秋, 福井靖典, ※薄井修

菊池壽, 島倉啓剛, 杉岡良平

我々の教室では、妊産婦の栄養特にその食餌補給につ